

## 第 2 3 研究発表

湖北地域における認知症医療と介護連携を促進するための取組み

野口 恭子

平成 28 年 12 月 18 日開催

第 2 回認知症にかかる医療と介護の滋賀県大会

湖北圏域における地域連携クリティカルパス（脳卒中）の運用実績と  
今後の課題

村井 あき

平成 29 年 2 月 12 日開催 第 47 回滋賀県公衆衛生学会

湖北地域における認知症医療と介護連携を促進するための取組み

○野口恭子／保健師 1), 梶本まどか／保健師 1), 角田淳子／保健師 2), 勅使河原弘美／保健師 2), 澤村みな子／保健師 3), 角田加奈子／保健師 3)

1) 湖北健康福祉事務所, 2) 長浜市高齢福祉介護課, 3) 米原市くらし支援課

【目的】

湖北地域では、2015 年 10 月にセフィロト病院が認知症疾患医療センターに指定され、認知症疾患医療センターを中心に認知症対策における医療・保健・介護・福祉のネットワーク構築のための取組を進めている。今回は、その中で特に認知症医療と介護連携について報告する。

【方法】

- ・ 湖北地域認知症疾患支援連携推進会議の開催
- ・ 認知症ケア従事者研修会の開催
- ・ 認知症医療・介護連携にかかる連絡会の開催

平成 28 年度より、管内医療機関、地域包括支援センター（委託含む）、行政の実務者が医療介護連携の必要なケースを通じた地域課題や認知症連携シート（以下「シート」という。）の有効活用など認知症医療と介護の連携の在り方を検討し、相互の連携を促進するため連絡会を開催している。

【倫理的配慮】

本発表において個人が特定できるような資料は含まれていない。

【結果】

- ・ 認知症の初期診断を行うかかりつけ医や専門医は、診療に時間がかかり負担が大きいことから、相談機関が情報収集やアセスメントを実施したうえで医療との連携を図るため、シートを考案した。本シートは認知症疾患センターや医師等の意見をもとに、4 大認知症の特徴別にチェックできるように、今年度から本格的に運用を開始した。運用にあたりシートの活用方法についてケアマネージャー等を対象にした研修会を実施した。
- ・ 各医療機関が把握している現状・課題をまとめ、その対応方法を検討した。

【考察・まとめ】

湖北地域は、県下で 2 番目に高齢化率が高い地域（27.2%）であるため、認知症の初期診断がスムーズに行えるための方策を検討し、シートを考案し、活用に向けた取組を進めてきた。シートは、医療機関へのスムーズな情報提供のみならず、各疾患の特徴を捉えているため支援者のアセスメントツールとしても活用できる。今後は、シートの活用を含めた現状把握に努め、さらなる連携の促進に向けた取組を進めていく。

# 湖北圏域における地域連携クリティカルパス（脳卒中）の運用実績と今後の課題

○村井あき、梶本まどか、瀬戸昌子（湖北健康福祉事務所）  
大橋直美（長浜赤十字病院\*）、尾崎幸子（市立長浜病院\*）、海津千津子（長浜市立湖北病院\*）

\*地域連携室

## 1. はじめに

当県において、地域連携クリティカルパス（以下パス）は、患者の疾病の回復過程に応じて、急性期・回復期・維持期における治療と支援が切れ目なく進んでいくためのツールとして活用されることを目的に作成された。

当圏域では、平成 18 年度より医師会を中心に脳卒中パス導入の検討が始まり、平成 19 年度より、保健所が「地域連携クリティカルパス検討会（以下検討会）」を設置し、湖北独自のツールの開発や運用ルールの作成の検討など、パスを通じた医療と介護の連携システムの構築を図ってきた。

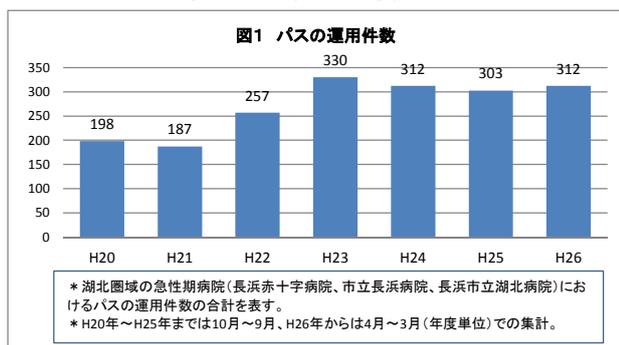
パスの検討を開始し 10 年を迎え、これまでの運用実績をまとめ、今後の課題を考察したので報告する。

## 2. 方法

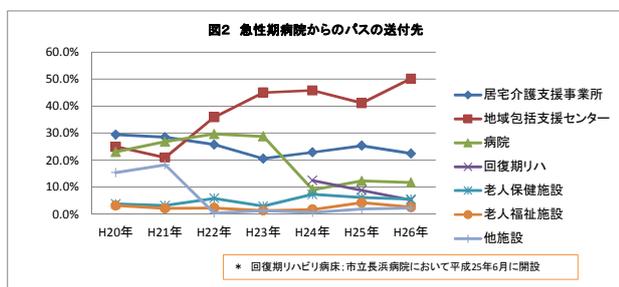
湖北圏域における平成 20 年度～26 年度の 7 年間にわたるパスの運用状況、検討経過をまとめた。

## 3. 結果

○パスの運用状況(3 病院の実績)



運用件数は合計 1899 件、年平均 271 件であった。県の調査 1) において、各医療圏域の中で、最も多い件数で運用されていた。



パスの送付先は地域包括支援センターと居宅介護支援事業所を合わせると平成 26 年は 73%が在宅である。その中でも、地域包括支援センターへの送付が 50%と最も多く、経年的に見て増加傾向である。

パスの返送は、転院先病院・施設の退院・退所時および、在宅の場合は、ケアマネジャーから退院後 1 か月の時点での情報を記入し、連携元へ送付している。

平成 26 年度の急性期病院への返送率は 83%であった。

フィードバックされたデータは、病院の看護及びリハビリ職等において共有され、質的な評価検討に活用されている病院もある。

○検討会の状況

開催：年 1～2 回

メンバー：急性期病院医師、看護師、リハビリ職、地域連携室、回復期リハ病棟、老健、地域包括支援センター、市役所、保健所等約 20 名

内容：パス運用件数の報告、運用状況の評価や今後の運用についての検討

## 4. 考察

当圏域では、県内において最もパスの運用が多く、その返送率も高いことから、経年的に見ても安定した運用が図れていると言える。

当初から、湖北独自のパス様式の開発など、急性期から維持期における医療や介護に携わるメンバーが一堂に会し、運用目的を確認しながら、検討の過程の中でネットワークづくりが進んできたことが大きな要因と考えられる。

長浜赤十字病院では、平成 21 年～平成 27 年 9 月のパスの運用 815 人のうち、34 人 (4.1%)に再発がみられた。このことから、今後、再発予防の取り組みを検討する必要がある。

また、湖北圏域における脳卒中の年齢調整発症率は県下で 2 番目に高いことから 2)、生活習慣病予防、早期発見・治療の継続等、一次予防を更に推進していく必要がある。

## 5. まとめ

○当圏域では、回復期リハ病棟や地域包括ケア病棟が開設した経過もあり、パスの運用を通して、急性期から維持期における切れ目ない医療と介護の連携システムが定着している。

○1 か月後のパスの返送率が 8 割と高いことから、フィードバックされたデータから質的な評価検討が行われている。

○再発予防への取り組みとして、地域での生活習慣病予防対策の充実・強化について検討が開始されている。  
○今後は、滋賀脳卒中データセンターのデータの活用を図り、圏域の脳卒中对策についての取り組みを検討していきたい。

[引用文献]

1) 地域連携クリティカルパス運用状況(平成 27 年 5 月調査)、県庁医療福祉推進課調べ

2) 滋賀脳卒中データセンター通信、2016 年 3 月号